

富士見市立考古館開館 50 周年  
資料館友の会発足 40 周年記念展示

令和5年度秋季企画展

# 資料館 活動団体 作品展

前期

【資料館友の会】

拓本部会 / 土器づくり部会  
木綿部会 / 竹かご部会  
ふるさと探訪部会

令和5年10月14日(土)

▶ 令和5年11月12日(日)

富士見市立難波田城資料館

2023.10

## 資料館活動団体作品展(前期)

### 第 15 回富士見市資料館友の会作品展 開催にあたり

本日は、第 15 回富士見市資料館友の会作品展にご来場賜りありがとうございます。  
資料館友の会は、昭和 58 年 3 月に前身の考古館主催事業の受講者が結成した土器づくり部会と拓本部会の 2 部会でスタートしました。現在、水子貝塚資料館と難波田城資料館を活動拠点に資料館との協働の関係を大切にしながら、竹かご部会・木綿部会・ふるさと探訪部会を加えた 5 部会が、それぞれに目的やテーマを持って活動を続けています。現在、資料館友の会の活動は部会ごとの活動が中心で、それぞれに先人の知恵や技などの伝統文化を受け継ぎ、その成果を作品や情報として伝えていくとともに、資料館とは資料館主催事業の講師や小学校への出前事業へのお手伝いなど、友の会発足以来の強い結びつきが特徴です。活動成果の発表の場としては、隔年で友の会作品展を開催しています。作品制作は手段であって目的ではありませんが、多くの皆様の心に残る作品をご覧いただけるようさらなる成長をめざして励んでいます。その過程を大切に仲間と楽しく活動を続けることが、活動の原動力になり会員の生きがいにもなっているものと思います。今回の作品展を通じ友の会活動への理解が深まり、同好の仲間の輪がさらに広がることにつながれば幸いです。

今年は資料館友の会発足 40 周年となりますが、これまでの成果が実を結び、文化財保存全国協議会の第 24 回和島誠一賞を 6 月に受賞することができました。ここに、資料館友の会と難波田城資料館の共催で、難波田城資料館、水子貝塚資料館を活動拠点とする 5 部会による作品展を開催し、活動成果を展示いたします。

最後に、この作品展開催にあたりご協力を賜りました関係者の皆様方にはこころより厚くお礼申し上げます。

令和 5 年 10 月 14 日

富士見市資料館友の会

富士見市立難波田城資料館

## 富士見市資料館友の会のあゆみ

- 昭和 58 年（1983）3 月「富士見市考古館友の会」誕生。「土器づくり部会」「拓本部会」発足。
- 60・4 第 1 回友の会合同作品展開催（土器と拓本）鶴瀬駅サンライトホールにて土・日。
  - 62・6 『考古館友の会だより』創刊。  
全体会事業（県内・近県の博物館等の見学開始）（春・秋に実施）
  - 63・3 第 2 回友の会合同作品展開催（土器・拓本・ワタ）
  - 63・4 「ワタの栽培から機織りへ」終了後、受講者中心に「木綿部会」発足。  
考古館友の会だより」創刊(平成 23 年 3 月、30 号で休刊)
- 平成 2 年（2000）年 3 月 第 3 回友の会合同作品展開催（土器・拓本・木綿・竹かご）
- ・5 「民具工作講習会竹かごづくり」から、受講者中心に「竹かご部会」発足。
  - 4・3 第 4 回友の会合同作品展開催（土器・拓本・木綿・竹かご）
  - 5・3 「難波田氏館跡史跡公園整理事業と友の会」社会教育課長と考古館長との懇談会。  
資料館 友の会活動の場として古民家を要望。
  - 6・3 第 5 回友の会合同作品展開催[10 周年]（土器・拓本・木綿・竹かご）
  - ・6 水子貝塚公園オープン。
  - 7・9 友の会紹介フレット『あなたも輪ん中へ入りませんか』作成・配布。
  - 8・3 第 6 回友の会合同作品展開催（土器・拓本・木綿・竹かご）
  - 7 第 1 回水子貝塚まつり（星空シアター）実行委員会に参加。
  - 9 難波田氏館跡史跡公園整備検討委員会に参加（友の会会長）
  - 10・3 第 7 回友の会合同作品展開催[15 周年]（土器・拓本・木綿・竹かご）
  - 5 友の会内に市民学芸員制度検討委員会設置。
  - ・10 考古館が水子貝塚に移転。土器づくり部会も活動起点を水子貝塚に移す。
  - 11・2 検討委員会提案書（市民学芸員制度の確立）を考古館長に提出。
  - 12・3 第 8 回友の会合同作品展開催（土器・拓本・木綿・竹かご）
  - ・6 難波田城公園・資料館オープン。開園祭り「ふるさと体験コーナーに協力。  
友の会は 2 館連合の「富士見市資料館友の会」に改称。
  - 13・5 「一般部会」から「見て歩好部会」へ改称（平成 15 年(2005)に解散）
  - 14・3 第 9 回友の会合同作品展開催[20 周年記念]（土器・拓本・木綿・竹かご）  
市民学芸員有志による「ふるさと探訪部会」発足。
  - 15・10 「埼玉県 文化ともしび賞」受賞。
  - 16・4 第 10 回友の会合同作品展開催（土器・拓本・木綿・竹かご・ふるさと探訪）
  - 18・5 第 11 回友の会合同作品展開催（土器・拓本・木綿・竹かご・ふるさと探訪）
  - 20・5 第 12 回友の会合同作品展開催[25 周年記念](土器・拓本・木綿・竹かご・ふるさと探訪)
  - 21・10 国生涯学習フェスティバル「まなびピア埼玉 2009」に参加。
  - 23・5 東日本大震災により第 13 回友の会作品展開催自粛（以降中断）
  - 26～27 教育委員会主管「文化財総合目録作成事業」に協力。
  - 27・10 「難波田城公園開園 15 周年秋のなんばったまつり」の作品展に出展。
  - 29・9 第 13 回友の会合同作品展開催【35 周年記念】（土器・拓本・木綿・竹かご・ふるさと探訪）
- 令和 2（2020）年 10 月 第 14 回友の会合同作品展開催（難波田城公園 20 周年記念）
- 5・6 文化財保存全国協議会 第 24 回和島誠一賞受賞。
  - 5・10 第 15 回友の会合同作品展開催【40 周年記念】

## 資料館友の会 土器づくり部会

### 会のなりたちとこれまで

昭和 57 年(1982)に富士見市立考古館にて開催された、土器作り教室の参加者が、継続して、市内で採取した粘土を使って、市内で発掘した縄文土器を作る活動をはじめました。翌年4月の「考古館友の会」発足とともに「土器作り部会」となりました。その後水子貝塚資料館に活動の場を移し、現在に至っています。

### 現在の活動

市内の出土品をモデルとした作成に加え、市外・県外の土器・土偶・耳飾りも作っており、市内の土器などの特徴の理解に役立つとともに、成形方法の探究にもなっています。

近年は、市内で粘土の採取は難しくなり、会員の埼玉県内の粘土の分布と質の研究により埼玉県内の粘土を採取しています。繊維などを粘土に混ぜる取り組み、カラムシを使った縄文原体や竹を使った縄文土器紋様の再現、大型土器作成の試み(※)、尖底土器の作成方法の探索、製塩実験、数種類の野焼き方法の試みも行っています。

定例会の土器づくり(年3回)では、粘土こね、成形、磨き、焼成に約4~5か月の過程を経ます。作品展に向けて力が入ります。

研修活動として、関東近県の縄文遺跡や博物館の見学や交流、勉強会を行い、各自の研鑽と好奇心の探究に活かしています。

また、水子貝塚資料館の土器づくり教室、他市町村や小学校への土器づくり授業、市内のイベント(星空シアター、縄文マラソン)などへの協力活動を行っています。

会員の取り組みや学習の詳細は、会報に掲載し発行しています。



※ 大型土器づくりの挑戦(獣面把手付土器、羽沢遺跡出土)

大型土器づくりは、土器成形後半でひび割れの進行が激しく作成を断念しましたが、作成の過程で、粘土の質、厚みの調整、乾燥・重量への備え、大型ゆへの移動する際の工夫(パレットを作成し、その上で作成し移動可能に)など、多くの学びがあり、今後につながっています。

## 資料館友の会 拓本部会

### 拓本部会の誕生

昭和 56 年(1981)の富士見市立考古館主催「石碑めぐりと拓本講習会」終了後、受講者グループの要望により「拓本による庚申塔の記録活動」が2年間継続されました。58年3月「考古館主催事業発表会・考古館友の会発足の集い」には拓本グループと同様主催事業から生まれた土器づくりグループも参加し、考古館友の会の発足と同時に拓本・土器づくりの2部会が誕生しました。

### これまでの活動

拓本部会誕生から40年、以来「拓本による調査記録活動」や「研修」を柱に、拓本の魅力や楽しさを伝える「作品展」「拓本教室」などを行ってきました。

**①拓本による調査記録活動** 調査終了の都度まとめの小冊子を発刊してきました。『庚申塔』(昭和59年)、『馬頭観世音』(昭和61年)、『弁財天』(平成2年)、『道しるべ』(平成6年)。これ以外の石碑・石塔を加えた地域別の記録冊子として『富士見市石造物調査記録Ⅰ勝瀬地区・鶴馬地区』(平成14年)、『同Ⅱ水谷地区(水子・水谷東・針ヶ谷)』(同18年)も発刊しました。これらの冊子は長年の活動の結晶として会員の宝物となっています。

**②研修** 昭和59年からは年2回の研修で県



難波田城公園内の石碑の採拓

内外の各地を訪ねました。著名な句碑・歌碑・童謡歌碑・文学碑などの採拓を楽しみ、その土地の歴史や文化にも触れ、数々の楽しい

思い出も残し、親睦を深めてきました。

主な研修地と実施回数

東京都 11 神奈川県 2 千葉県 3 埼玉県 16  
群馬県 5 栃木県 3 福島県 3 宮城県 1  
山形県 2 新潟県 3 富山県 2 山梨県 2  
静岡県 4 長野県 13 岐阜県 2



道玄坂道供養碑の採拓(渋谷区 平成24年)



ペリー艦隊来航記念碑の採拓(下田市 平成27年)

**③作品展** 友の会合同作品展には、昭和60年の第1回以来、毎回出展しています。平成24年には拓本部会創部30周年記念作品展を部会単独で開催しました。

**④拓本体験指導** 難波田城資料館主催「拓本体験教室」「ちょこっと体験」のほか公民館事業の地域こども教室、人材バンクモデル事業、ふじみ野交流センターの拓本体験などで拓本を楽しんでいただきました。

### これから

考古館主催事業「拓本講習会」で出会ってから40年。拓本に対する思いは変わらず、今後も拓本部会として活動を続けてまいります。墨と和紙で表現するアートとしてその美を追求し、拓本の魅力や楽しさを広めていく活動も目指してまいります。

## 資料館友の会 木綿部会

### 会の成り立ちとこれまで

きっかけは、市民から寄贈された古い綿繰り機を蘇らせたいと、市立考古館が昭和 61 年度(1986)に主催した事業「ワタの栽培から機織りまで」です。市民によびかけ、参加した市民とともに、現在の難波田城公園の一部を開墾して、綿花の栽培、収穫、綿繰り、糸紡ぎを実施しました。2 年目(1987)に機織りを実施しました。現在、長屋門展示室に展示されている、市内で機屋を営んでいた家から寄贈された大正時代の機織り機と縞帳を使い、縞の布を織り復元しました。そしてこの事業の参加者有志で「考古館友の会木綿部会」を結成しました。平成 12 年、難波田城資料館開館に伴い、資料館友の会木綿部会となり、旧大澤家住宅が活動場所になりました。

### 現在の活動

毎週木曜日に活動しています。

4 月末に長屋門前の畑を耕し畝を作り、5 月の連休の頃に前年に収穫したワタの種をまき、綿作りを始めます。8 月末から綿花を収穫して、綿と種を分ける綿繰りをします。綿は数年分まとめて業者さんに精綿してもらいます。その綿を糸車で紡ぎ、草木染めをして、機織り機で平織りの布を織ります。

1 反 10 メートルほど織るので、経糸は撚りの強い市販糸を、緯糸は自分たちで紡いだ糸と一緒に染めて使います。模様を決め、糸の長さを決める計算をします。そして粹巻き、整経、仮筵、緒巻き、綜統、筵通しなど一連



綿つみ



糸つむぎ

の作業をした後  
ようやく機織り  
になります。

このように、  
春から秋に綿を  
育て、糸を染め  
て年に 2 回ほど  
布を織ります。

また、資料館に  
協力して、ちょ  
こっと体験や難  
波田城公園まつ

りではたおり体験、糸つむぎ体験、2 年に一度のはたおり教室などを行っています。さらに、1～2 月に、市内全小学校で 1 年生国語教材「たぬきの糸車」の理解を助けるため、糸車体験の出前授業を行っていましたがコロナ以後は、紡いだ横糸を提供しています。

模様や染めについては、先輩方が残されたものを参考にしたり、各自が見聞きしたものをどのように取り入れていくか、話し合っていて進めています。また、近隣で機織り関連の展示や活動をしている上福岡（ふじみ野市）、川越市、入間市、清瀬市の郷土資料館や博物館へ見学などの研修をしています。

### これから

コロナ禍を経て、今までの活動をどれくらい続けていけるかは不明ですが、「綿を育て、糸を紡ぎ、糸を染め、機織りをする」原則の活動を続けていきたいと考えています。



機織り

## 資料館友の会 竹かご部会

### 会の成り立ちとこれまで

竹かご部会の前身は、昭和 62 年(1987)11 月、富士見市立考古館（資料館の前身）が、市内在住の竹かご職人の橋本能造氏を講師として「民具製作講習会」を行い、翌年から講師と講習会参加者により月 2 回の活動を開始したのが始まりです。平成 2 年(1990)に考古館友の会に加入し、竹かご部会となりました。

### 現在の活動

主に旧金子家住宅で、月 3 回、第一、第三、第四金曜日に活動しています。

竹は日本各地で生育しその種類は 600 種ほどあるといわれています。竹かご部会で使用するのは国内生産量の約 25 %の真竹です。柔らかく、光沢があり竹細工に使われます。

まず、材料となる真竹を分けていただいている農家の竹林整備、片付けを年 2 回程行い、伐りだしは 11 月に来年に使用する予定数量の青竹を伐りだし、難波田城に運び竹置き場に保管して使用しています。

平常の活動日には各自の作品作りを行っています。ヒゴ作り、作ったヒゴを編む作業、縁の火曲げ、籐巻き等の作業をしております。作業風景は自由に見学ができます。活動日に来園され作業風景を見学された方からも多くの質問をいただきますが分かる範囲で丁寧に回答させていただいております。

ヒゴを作り、底編みから始め、立ち上げ・胴あみ、縁作り・籐かがり、力竹・角かがり、持ち手の取り付けと工程を進め全てを一人で行い、世界で一つの作品を作り上げる難しさ、楽しさを味わっています。編み方もいろいろ有りそれらに挑戦しています。

今年は、新型コロナ拡散防止のために出来ないでいた、難波田城公園まつり(竹のお箸作り)、竹かご教室等を例年通り開催致しました。

### これから

竹かご部会発足から 30 年以上がたちました。当時、ご指導いただいた橋本能造氏の技術継承を含め、各地の竹かご製作の技術を学び各自の技術、知識を高めていきたいと思えます。まだまだ知らない編み方、製作方法等もあると思えます。それらにも挑戦していきたいと思っています。

これからは、技の継承のためにも、新たな人材、部員の募集を積極的に進めていきたいと思えます。



竹割り



竹ひご作り



かご編み

## 資料館友の会 ふるさと探訪部会

### なりたち…地域の歴史・文化財を学ぼうと

市民学芸員 4 人が中心となり平成 13 年(2001)11 月、「ふるさと探訪の会」として発足しました。園内ガイドツアーの参加者から市内の名所・旧跡について質問されたことがきっかけです。地域の歴史、文化財について学び、市内外の方にも知っていただくのが目的です。ガイドに向け、事前調査に約 1 年半かけました。市発行の『ふじみ 100 見』をもとに『富士見のあゆみ』ほか各種資料を活用して現地を歩きました。

平成 14 年 5 月、資料館友の会への加入にともない「ふるさと探訪部会」に改称。15 年 6 月、「第 1 回ふるさと探訪～難波田城周辺を歩く～」でガイドがスタートしました。

### 現在の活動…一般募集の探訪会を軸に

一般募集による探訪会、部会員の市外地区探訪、公民館活動などでのガイドに取り組んでいます。毎月第 1 日曜日が定例会、毎年 4 月に総会を開きます。会員は 12 人。

○探訪会 春と秋、年 2 回の文化財・史跡めぐりです。難波田城資料館との共催で、市内・市外を交互に選んでいます。令和 5 年 9 月までに 39 回実施。市内探訪では「鶴馬の湧き水と寺社をめぐる」「民間信仰と伝説・史跡を訪ねる」など、テーマを工夫しています。市外では志木市、三芳町、ふじみ野市のほか「赤塚城(板橋区)界隈の史跡めぐり」など都内や川越市も訪ねました。参加者は累計約 900



第 35 回のふるさと探訪で

人。常連も多く皆勤賞などで表彰したこともあります。解散時に配る集合写真・手製しおり、参加者証の缶バッジが好評です。



○発足 10 周年記念にパンフレット「ふじみの坂」(平成 23 年)を発行し、注目されました。

○市外地区探訪 部会員の親睦も兼ねて実施しています。会津若松市(創部 3 周年)、甲府市・塩山市(武田家ゆかりの地)訪問は一泊しました。最近では、春日部市の「首都圏外郭放水路(地底探検ミュージアム)」を見学し、いい勉強になりました。



地底探検ミュージアム

○公民館活動でのガイドなど 南畑公民館の「郷土散歩クラブ」のガイドを担当しています。地元の南畑地区だけでなく他地域を合わせ 37 回を数えます。水谷公民館、健康増進センター、市民大学主催の歴史講座、歴史散歩などでも講師・ガイドをつとめています。

○定例会 活動の計画などを話し合い、情報交換をします。「ガイド」力を身に付けながら、部会員の得手も生かし「ミニ講座」も開催し、「鎌倉時代と平家の落人」「放射線に関する法令」などを学びました。

### これから…創部 22 周年にふさわしく

2023 年は創部 22 周年です。従来活動をより一層盛り上げて、多くの方に市内外の歴史・文化財に関心を持っていただきたいと思っています。会員募集中。一緒に活動してみませんか。





資料館友の会の活動実績紹介。会のこれまでのあゆみがわかります。



木綿部会の作品。ワタから紡いだ布で織りました。



土器作り部会の作品。遺跡出土土器を忠実に再現しました。



拓本部会の作品。鶴瀬駅の開設記念碑の拓本を展示しています。



竹かご部会の作品。様々な形の竹カゴを製作しています。



ふるさと探訪部会のコース展示。今回は新河岸川の河岸場を紹介しています。



令和 5 年秋季企画展

資料館活動団体作品展(前期)

展示案内パンフレット

令和 5 年 10 月 14 日

編集・発行 難波田城資料館